

## 第10回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年9月1日 午後3時から午後4時10分

場所 ふれ愛支援センター 多目的ホール

参加 委員 15名  
事務局 6名

### 議事

- ①大和地区小学校再編に係る意見の整理（資料1）
- ②大和地区小学校の適正配置について（資料2）
- ③その他

1. 開会（学校教育課長）15：00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

課長 資料1、資料2について説明。

委員長 事務局より、資料の説明がありました。今回、大和地区のことについて議論していますが、今後行う他地区の検討を進めるうえで、一定の方向性となるものだと考えます。それを踏まえ、委員の皆様から意見を出していただきたいと思います。

今回示された資料は、資料1にある委員の意見の整理を具体化した場合、このような形になるのではないかと、という事務局の想定です。この想定をたたき台として、委員の皆様のご意見を反映していきたいと思います。

まず、三用小、赤石小の複式学級を回避するためには、この2校での統合が想定されています。委員会の考え方としてまとめたいと思います。この想定には、事務局の想定である2校の統合のほか、統合を前提として当面の間複式となることを了承する、その他の学校との統合など、いくつか考えられると思います。

このことについて、まず関係する東地区の委員からご意見をいただきたいと思います。

委員 三用小、赤石小の統合については異論はありません。今ほど話があったように大和地区全体という部分ではもう少し早い段階から統合を考えていかなければならないと思います。

委員 基本的に原案のとおりで良いと思います。議論の中で複式学級になるから、というこ

とが前に出ていたと思います。それは一つの考え方としていいと思いますが、三用小、赤石小の場合は複式学級になることだけを意識するのではなく、大和地区全体が統合する間、1～2年は複式学級になっても良いというように幅を持たせることが大事だと思います。第一段階の統合が複式になる場合と、複式は防ぐべきという場合の2通りあると思うので地元の意見を聞いて進めた方がスムーズにいくと思います。

委員 資料 2-2 によると三用小、赤石小は早ければ令和8年に統合が想定されていますが、児童数が少ない2校なので遠いようで近いと思います。東地区ということでそれぞれ交わりもあるので、難しい話ではないと思います。令和8年に三用小学校が複式になるからすぐに統合しようということではなく、地域の意見を聞いた上で統合の時期を決めていくのがいいと思います。

委員長 地元の委員の意見を伺いました。他に意見があればお願いします。

委員 学区再編の基本である1学年最低2クラスということを大和・六日町・塩沢で進めています。それぞれの学校で複式学級が発生するからとりあえず合併して、次の大同合併に向けて進めるということではなくて、三用小、赤石小であれば浦佐小学校のような中心校となる学校に統合していき、最終的に大和地区で1校になるように進めるという大前提を作るべきだと思います。大和地区に限らず、塩沢や六日町も同じなので、どこの学校が統合するかは教育委員会で案を出して、地元と協議をしていくという風に進めていくのがいいと思います。私はできるだけ大勢の子どもたちの中で切磋琢磨して教育ができる環境を早く整備して、大和地区に関しては建物が老朽化しているので、新規に統合小学校を建設して進めていくということを打ち出すことが教育委員会の責任だと思っています。学区再編の検討委員会としては学区再編の基本的なルールを議論していくところだと思っています。今まで、通学については距離が決まっていますが、国はバスを含めて1時間以内であれば問題ないと示しているので、バス通学であればすべて収まるとしています。この委員会では基本的なルールを重要視していただき、個別のことについては教育委員会で案を出して地元の協議会等に説明していくという段取りが必要だと思います。

委員 一つの学校に統合するということだと思いますが、どこの学校にどの学校を統合するかというのを示して行く末を決めておくべきだと思います。児童が350人になるのを待って全体を統合するようなイメージを受けたので、そうではなくて、いつまでにとことを決めるべきだと思います。教員確保困難地域ということで、それを解消することや教員の配置基準を見直すことも県や国に働きかけていくという意思を答申に示しておくべきだと思います。

委員長 複式学級になるべくしないということを念頭に話を進めてきましたが、地元の考えが

あって一時的に複式学級になってもいいという意見もありましたし、やはり大勢の中で教育環境を整えるという話もありました。その2本が今日の意見であります。校長先生方から意見はありませんでしょうか。教員確保については上に意見をあげて進めていくという意見も踏まえた中で、三用小と赤石小については事務局の想定を加味して進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

副委員長 地元と協議して一時的に複式学級になることはやむかたなしとなった場合ですが、社会や理科は5年生と6年生が同じ学級なので2年かけて1年目は5年生、2年目は6年生の学習をします。2年がかりで学習を終わらせるので、1年だけ複式学級ということは難しいところが出てくるかもしれないということを頭の片隅に置いていただければと思います。

教育部長 中心校を決めておくべきだろうということ、どこが統合していくか決めておくべきではないかという発言がありました。これを委員会の答申で決めておこうというお考えなのか、答申には盛り込まずに地元との協議の中で決めるべきだというお考えなのかを明確にしていいただければと思います。

委員 私は大勢の中で切磋琢磨して教育する環境を早く作るということを学区再編検討委員会の答申として出していただきたいです。時間をかけることも大切ですが、前回は複式学級が出ないように、できれば1学年2クラス以上ということが付帯意見としてでましたが、そうではなくて1学年2クラス以上ということが基本の答申として大事だと思っています。それに向けてどういった配置にするのかは教育委員会が案をだして地元の協議会を立ち上げて説明していくという方向だと思っています。前回の答申で1クラス16人以上ということが出ているので、それに満たない学校は中心校に編入するという方向をこの検討委員会で出すべきだと思っています。

委員 大前提として、大和地区は一つの学校にするということが答申として出ると思いますが、道筋として我々のわからないことも多く、複式学級を避ける方策もあれば何年かは複式学級でという方策もあると思います。いずれにしてもいつまでに一つの学校にするかというのを目指す中で、350人に児童数が減らないとマンパワーが足りないという話もありましたが、それは少し違うと思います。少しでも早く統合して、だんだんと統合するのか複式学級を避けながら統合していくのかということになると思います。働き方改革のために教員業務支援員の倍増という話が出ていますが、そうではなく、子どもたちのために配置基準の見直しをこちらから発信していく必要があると思います。この検討委員ではあまり細かいことについては決められないと思います。

委員 将来的に切磋琢磨した教育環境を整えることを見据えた理念の部分と、どこどこがどんな形で統合していくのかという現実的な対応の部分に分けて整理する必要がある

と思います。現実問題を進める上でどうなのか、住民の意見を聞くスタンスがどうなのかということ踏まえて、議論の中心は事務局にお任せした方がいいと思います。

教育部長 中心校を想定して大和地区で一つの学校にするということは検討委員会での合意形成が図られるべきで、どこの学校を中心校にするのか、この時期になったらどこどこの学校が統合するのかということは委員会の答申としては決めないということが委員会の総意になるということでしょうか。

委員長 最終ゴールはある程度決めておいた中での進め方については、答申に盛り込んだほうがいいということでしょうか。

委員 委員長のおっしゃる通りです。前回の答申の中では複式学級が発生する恐れがある場合は統合するということが大前提でした。1学年16人以上ということでしたが今は子どもの減り方が激しくて前回のルールのままでは対応できないということで、新たなルールを作るために今回の検討委員会が始まったわけです。中学校区が小学校区ということをお大前提としての統合スケジュールについては、この委員会で検討しても後々残ることも心配されるので、教育委員会がやるべきだと思っています。また、みんなが通う学校に馴染めない子がいるので、小規模特認校については必要だと思います。1校か2校かというのは難しいところですが、登校しやすい場所に設置するべきだと思います。

委員長 答申の中に最終ゴールを定めて、方向性のある程度答申に盛り込んだ上で統合については地元の協議等これからの話という意見がありました。今いただいた意見でよろしいでしょうか。

副委員長 資料1にあるように将来的には大和地区で一つの小学校を目指すということが答申に盛り込まれると思っています。編入統合なのか新設統合なのか、どういう手法で合併していくかは保護者や地域の意見を大切にして進めるということです。地域の皆さんが1~2年は複式学級で頑張ってみて校舎ができれば統合とするのか、とりあえず三用小、赤石小で合併してから2段階で統合していくのかということをお地域の方にメリット・デメリットと共に示さないといけないと思います。道筋も教育委員会で全部考えるというのは今までの検討がどうなるのかということもあるので、ある程度この中で得られたものについては答申に盛り込んで、地域の方々の意見も尊重しながら提案していくのがいいと思います。また、教員確保についても盛り込むべきだという意見もありましたが、市教委でも要求していただいていると聞きますし、全国の校長会でも文科省に定数改善について要望していますので、答申には盛り込まなくていいのではと思っています。

委員長 統合は地元の方々の合意形成が前提となると思います。この委員会ではいずれ1校にするということを考えながら、校舎の老朽化も含めた中で今後どうしていくか意見がありましたらお願いいたします。

委員 建物としては浦佐小学校が令和9年に60年ということですが、統合に向けて動いた人間として、三用小、赤石小がなぜ平成20年の答申の通りに動かなかったのか理解していません。浦佐小学校の改修まで待ってそこで編入統合とすれば、公民館事業が一生懸命な大和地区ですので大崎小学校と藪神小学校は頑張ってもらえると思います。第8回の会議で6つの学校を一気に統合するのは大変という話を聞いて帰ったので、東地区の2つの小学校は浦佐小学校の大規模改修に合わせて編入し、最終的に大和地区で1校を目指していくのが良いと思います。

委員長 建物の老朽化も並行して考えなければいけないので、将来的に大和地区で1校となることを目指すということは答申に盛り込んだ中で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。では、大和地区の統合については段階を踏んで進めていきたいと思います。

教育部長 資料1の規模について、①②に至る過程の話が出たと思います。地域との協議の中で選択肢があり、複式学級になるまでに統合するのか、複式学級をよしとするのか、あるいは中心校に統合していくのか、という過程の中でもう一つ加えるべきだと思います。統合までの学校規模については、地域との合意形成によって決めるべきという文言を加えた答申にすべきだと思いますが、皆さんからご確認いただきたいと思います。

委員長 規模について、今お話があった項目も入れ込んだ方がいいかと思われませんが、いかがでしょうか。スケジュールを考えていかないとずるずるいってしまう可能性もあるので、地元の方々の意見を尊重しながら進めていくということよろしいでしょうか。

委員 異議なし

委員長 続いて、③その他について、委員の皆さまから何かございませんでしょうか。

委員 資料1にある「地域の意見」を「地域（保護者等）の意見」というように記載していただきたいです。

5. 次回の開催予定：10月17日（火）

6. 閉会

午後4時10分終了